

大学の世界展開力強化事業【タイプ A-I 日中韓のトライアングル交流事業-CAMPUS ASIA Pilot Program-】

「大学の世界展開力強化事業」は、アジア及び米国等との高等教育ネットワークの構築を図ることにより、我が国の大学の世界展開力を強化し、グローバルな社会で活躍できる人材を育成するため国際的な枠組みでの高等教育の質保証を図りながら、外国人学生の戦略的受入れ、日本人学生と日中韓・米国等の外国人学生との協働教育による交流を行う事業に対して重点的に財政支援することを目的としています。

タイプ A「キャンパス・アジア」中核拠点形成支援-I は日中韓の三カ国における大学間で1つのコンソーシアムを形成し、単位の相互認定や成績管理、学位授与等を統一的に行う交流プログラムを実施する事業(CAMPUS Asia パイロット事業)である。日中韓が1校ずつパートナー校を設定し、3校が留学生の相互派遣と相互交流を行うことを通じて次世代の優秀な人材を育成する。



平成 23 年度採択

取組名称:「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム」

(事業推進責任者) 副学長・理事(社会貢献・国際担当)・教授 荒木 勝
(プログラムマネージャー) 社会文化科学研究科(経)教授 田口 雅弘

岡山大学(日本)、吉林大学(中国)、成均館大学校(韓国)総合大学三校で行う、「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム」が全国51件の応募のなか採択された10件の一つである。このプログラムの基礎には「共通善」という考え方がある。私たちが考える「共通善」とは以下のようなものである。



- 個人の利益と社会共通の利益を同時に実現していくこと
- 社会の共有された伝統的価値を再解釈し共有化していくこと
- 共通教育を通じ共通課題をともに議論しながら考えて解決策を模索すること
- 教育を個人的なエリート教育だけでなく共同的、協業的なレベルでも充実させること

三校は、これまで部分的にはあるがコンソーシアム協定を締結し、ダブルディグリー制度、共通講義、短期留学(単位互換)制度など、先進的でユニークな交流の実績と経験を積んできた。吉林大学は、歴史的に日本文化との接触が深く、日本語教育、日本研究の層が厚い。また、地理的、歴史的に韓国とのネットワークも緊密である。また、成均館大学校は高麗の成均館を母体とした

韓国最古の大学で、韓国文化と思想を代表する大学であると同時に、現代韓国を研究する上での拠点校でもある。岡山大学は、アジア共通の課題である省エネ・再生エネルギーの活用、循環型社会の形成、有機物質の研究、臓器移植、癌遺伝子の研究などで成果を上げているとともに、東アジア国際協力・教育研究センターを中心に、東アジアの政治、経済、文化、価値観の研究に取り組んでいる。

既に確立された共同教育システムの実績をもとに、相互を理解し、共通の価値観を持って、協力し課題を克服できる次世代の中核人材育成を実施する。具体的には、国際的な視野を持ちながら、同時に地域の文化に精通し、そして深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、技術開発、生産、販売のすべて面で3国の協業をリードできる企業中堅幹部候補、また環境、エネルギー、循環型社会の構築など、現代社会が抱える問題でリーダーシップのとれる人材の輩出を目指す。

岡山大学・吉林大学間では、(1)博士課程前期・後期ダブルディグリー制度、(2)短期留学(単位互換)制度、(3)共通科目の実施、を実現している。さらに、吉林大学において中国語の、また岡山大学言語教育センターにおいて日本語の語学研修を実施している。岡山大学・成均館大学校間では、短期留学と単位認定制度がある。また、吉林大学・成均館大学校間では、ジョイントディグリー、短期留学が実施されている。本プログラムは、こうした既存の制度と経験の蓄積の上に実施するものである。また、岡山大学が既に実施している「アゴラ」(地域社会、産業界とのコミュニケーションと共同事業の場)をモデルに、リージョナル・カンファレンス、フィールドセミナーを実施し、地域に必要な人材を育成する。同時に、各地域が直面する課題を実践的に学ぶことによって、課題解決能力を育成し、将来において地域の中核となり、地域相互の交流促進できる人材を育成する。さらに、卒業・修了後の就職・研究フォローアップ・システムを立ち上げて、育成した人材が地域で活躍できるようサポートする。